



TITLE:

瀬戸だより(3月)

AUTHOR(S):

CITATION:

瀬戸だより(3月). 天界 1937, 17(193): 269-270

ISSUE DATE:

1937-04-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/167461>

RIGHT:

瀬 戸 だ よ り

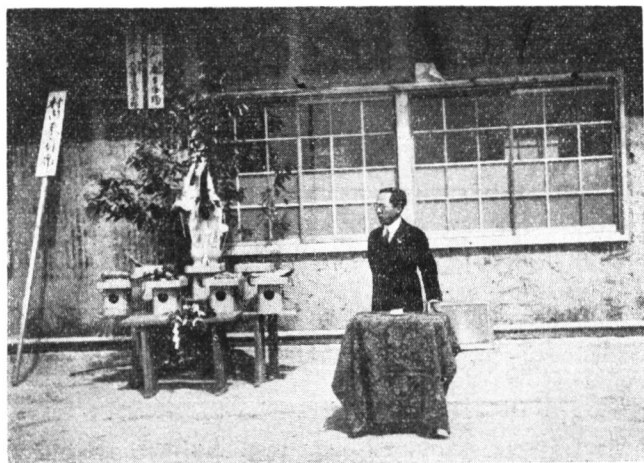
(3 月)

◇3月の瀬戸の天候は非常に悪く、連日悪天つきであつた。観測の方もおかげであまりふるはず、まことに悲惨なものであつた。

◇荒木主任は、京大樂友會館で開かれた研究會と、東亞天文協會觀測部會と、大阪で開かれた臨時總會御出席のため、5日福山御出發、8日歸村された。

◇22日午後、氣象觀測を擔當される藤野技師が御家族同伴來任された。氏は叡山の氣象觀測所に長くゐられた方であるが、今後多數の觀測器具をひつさげて、黃道光と氣象との關係究明のため、御奮闘される筈。

◇下旬やうやく春たけて、野に山に若草萌え、花便りもチラホラと、世は正に駉蕩の春である。いつ咲くとも知れなかつた庭先の椿が、純白の花を春陽に綻せて置らゝかに我が世の春を誇る28日、觀測所落成式が、多數の官民を迎へて、いとも盛大に舉行された。集る者數百、星見山上は人をもつて埋つた。



山本博士の挨拶 (1937年3月28日)

日の丸の國旗の下にひるがへる萬國旗は、松の緑と相映えて、碧空の下に
 颯爽と翻り、神官の讀み上ぐる祝詞いと莊重に、誠に森嚴の極みであつた。

この日山本先生には、南米日食遠征御出発前の御多忙もおいといなく早朝福山着、親しく開所式にのぞませられた。

又この機会に開かれた、第3回黄道光會議(別項所載)へ出席の課員諸氏も開所式に列席された。(ミス生)

× × × × ×

假觀測所の落成と共に、眞に熱心な諸君の來訪を拒むものではないが、所内での宿泊及び食事は出来ないことを御承知願ひたい。瀬戸は全村農家であるから、折角の御來訪に、これではお互に迷惑するので、觀測所の事業とは別に、村内の有志者の手により、極めて近いところに、略満足すべき設備が出来る筈であり、多分來る6月末より利用し得るやうになるであらう。

觀測所への道は、徒歩では備後赤坂驛からが最近であり、福山驛からの自動車はかなり近くまで來る。やがて觀測所の山の頂まで自動車道がつけられる筈(赤坂驛には自動車がない)。福山驛から鞆行或は草戸大橋行のバスをとり、草戸大橋西詰で下車、それより山路をとれば近いが、少しわかりにくい。

(荒木健兒)

陸地測量部2萬5千分の1地形圖から計算した位置は

東 經	133°20.0' (8時53.3分)
北 緯	34°27.8'

第 3 回 黄 道 光 會 議

假觀測所の落成開所式の好機をとらへて、3月28日午後、福山市に於て、第3回黄道光會議が開かれ、新しい國際觀測所の事業を中心として、各自専門的立場から、熱心に討論されたことは嬉しい。參集者は

廣瀬永治郎(岐阜縣)、佐野英生(福井縣)、宇野良雄(京都府)、窪田繁夫(岡山縣)、淺野英之助(廣島縣)、

山本教授、荒木健兒、藤野充治、本田 實(觀測所側)

の9名で議決事項は續々實行される筈である。